



ななおだより

東京都立七生特別支援学校



<https://nanao-sh.metro.ed.jp/site/zen>

〒191-0042
東京都日野市程久保 843
電話 042-591-1095
fax 042-593-5537
校長 黒澤 一慶

第 9 号
令和 7 年 11 月 29 日発行

「情報を得ることの大切さ」

副校長 小川達夫

冬の足音が近づく中、本日は学習発表会を御参観いただきまして誠にありがとうございました。小学部・中学部の舞台発表では、皆様からいただいた温かい拍手や応援が子供たちの大きな励みとなり、自信につながったと思います。また、高等部の作業学習班ごとの販売活動では、多くの皆様に製品をお買い上げいただき、子供たちにとっては、これまでの努力が実を結び、達成感を得る機会となりました。心より感謝申し上げます。

さて、今月日本で初めてデフリンピックが開催され、聴覚に障害のあるアスリートたちが、音のない世界で、熱い戦いを繰り広げました。選手たちは、手話やジェスチャーでコミュニケーションを取りながら仲間と共に目標に向かって頑張る姿をたくさん見せてくれました。デフリンピックでは、音による情報を視覚情報に置き換える工夫がされています。例えばスタートの合図は、ピストル音の代わりにフラッシュランプの光でスタートを知らせたり、個人種目では、大型スクリーンで他の選手の状況を常に確認できたりするなど、視覚的な情報保障がなされています。このような視覚的な情報は、競技を行う上でなくてはならないものとなっています。

こうしたことは、本校の教育環境や学習活動でも同じことが言えます。本校に通う子供たちも言葉だけでは理解することが難しい場合があります。そこで、絵や写真、シンボルなどの視覚情報を活用することがとても効果的です。視覚情報は、言葉での情報と違って繰り返し確認できるため、生活習慣の定着に役立ちます。手順表を机の上に貼ることで、自分で確認しながら行動できるようになることもあります。また、コミュニケーションの一部として、絵や写真を使うことで意思表示しやすくなります。さらに一日の予定を文字だけでなく絵カードや写真等でホワイトボードに示すと「次に何をするのか」が分かり、子供たちは、見通しをもって安心して活動に取り組むことができます。見通しがもてないと不安を感じてしまう子供たちが多いため、日頃の学習の流れをいつも同じようにして学習に取り組むことで、指示されなくても自分で考えて見通しをもって行動できるように指導することを大切にしています。

これからも視覚情報を活用し、子供たちにとって分かりやすく、子供たちが安心して学習に取り組めるように教育環境を整え、学習活動を進めて参ります。

高等部作業学習について紹介します。

主幹教諭 外川卓

<5つの作業班>

1年生から3年生の縦割り編成、火曜日（全学年）と木曜日午前（2、3年普通学級）に活動しています。

流通サービス班（事務、喫茶・レインボーカフェ）／ビルメンテナンス班（清掃）／食品加工班（製菓）
農園芸班（花栽培、畑作業、加工）／クラフト班（縫工）

<3つの「働く力」>

全作業班共通して、働くための力の育成の視点で学習に取り組みます。

1 態度 「意欲」、「責任感」、「集中力」、「時間の意識」、「気持ちの安定」

2 コミュニケーション 「挨拶・返事」、「報告・連絡・相談」、「協調性」

3 知識・技能 「体力（持続力）」、「指示理解」、「計画性」、「準備・片付け」

<今年度の活動>

帝京大学八王子キャンパスと百草園地アポロ広場での作業製品・カフェドリンクの販売、多摩療護園への出張販売を行いました。作業製品の紹介や接客など、生徒は各々の役割を担いながら協力して取り組みました。学校で取り組んでいることを生かし、地域とつながりのある活動を今後も展開していきます。